

「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料 ポータル—」の紹介

国立映画アーカイブ 展示・資料室

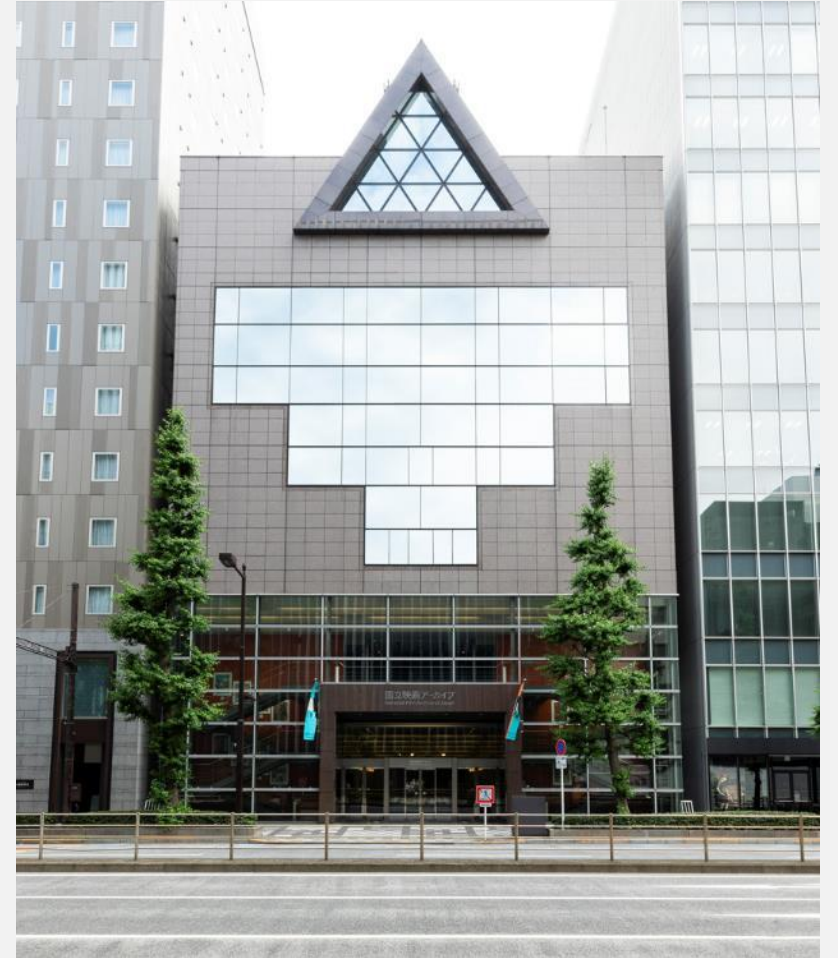
研究補佐員 佐藤いつみ

国立映画アーカイブについて (1/3)

日本で唯一の国立映画専門機関

通称NFAJ(National Film Archive of Japan)

- 1952年：東京国立近代美術館の映画事業(フィルムライブラリー)として始まる
- 1970年：東京国立近代美術館フィルムセンター開館
- 2018年：国立映画アーカイブ設立
 - 独立行政法人国立美術館の6番目の機関



国立映画アーカイブについて (2/3)

主な3つの機能

映画を保存・公開する拠点としての機能

- 国内外の映画及び映画関連資料の収集・保存・復元

映画に関するさまざまな教育拠点としての機能

- 映画を通じた文化・芸術や歴史・社会を学ぶ機会を提供

映画を通じた国際連携・協力の拠点としての機能

- 国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)に加盟、シンポジウム等の開催

国立映画アーカイブについて (3/3)



OZUホール(上映)



展示室

京橋本館



図書室



小ホール(上映)

相模原分館



保存棟フィルム棚



映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—



NFAJが所蔵する映画関連資料(=映画フィルム以外の資料)を包括的に公開することを目的としたWEBサイト

- 国立アートリサーチセンター(NCAR)の協力のもと、NIIと共同制作
- 2023年5月: WEBサイト・第一陣資料公開
- 2024年5月: 第二陣資料公開

第一陣公開資料：技術資料

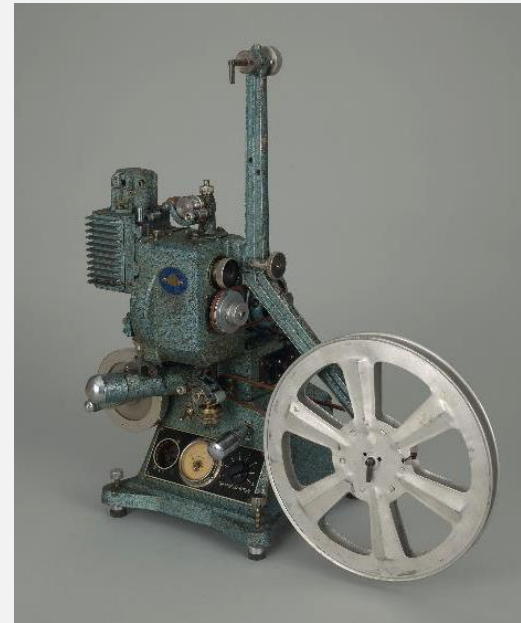
技術資料とは

- 主に映画に関わる機材類を指す

技術資料181点を公開

- 撮影機: 116点
- 映写機: 65点

製造時期は1900年代から1980年代



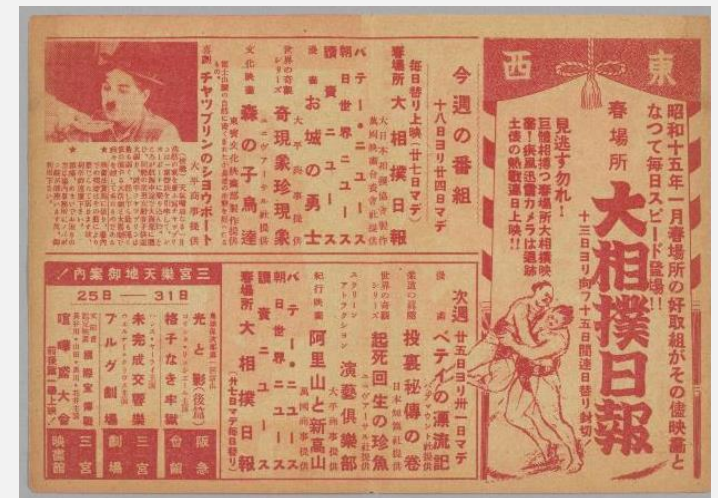
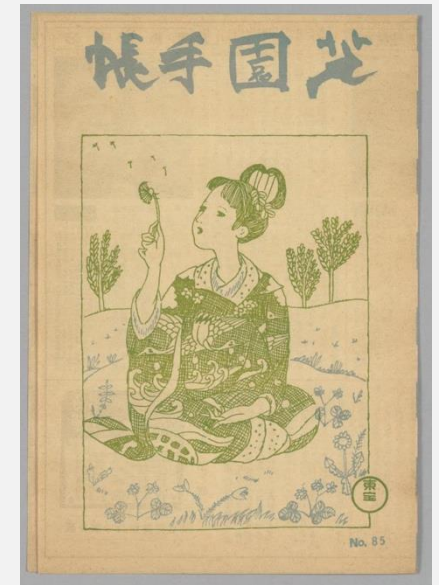
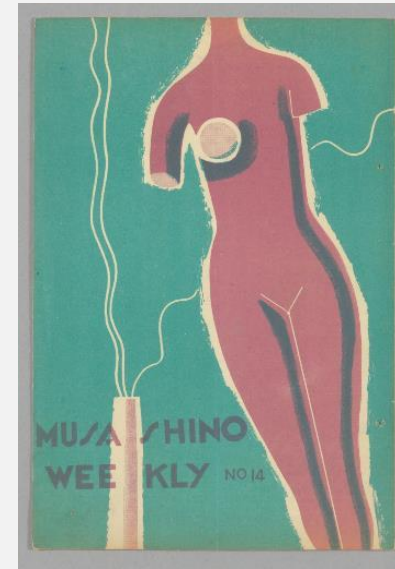
第二陣公開資料：映画館プログラム

映画館プログラムとは

- 各映画館がほぼ毎週発行していた上映作品や予告作品を紹介する刊行物
- 上映情報だけでなくコラムや評論、投書欄、デザイン性など映画館によって異なる魅力

「みそのコレクション」より映画館プログラム5,682点を公開

- うち画像あり: 4,449点
= 著作権保護期間が過ぎたもの



映画遺産ポータル^oの機能(1/2)

検索機能

①簡易検索・詳細検索

- 詳細検索ボックス: 資料名、西暦、組織・団体・人物名、資料ID、作品名、地域名、資料ジャンル

②連想検索

- 入力した単語や文章に関連した/類似した資料が検索結果として出力される
- 連想検索エンジンを導入

映画遺産ポータルサイトの機能(2/2)

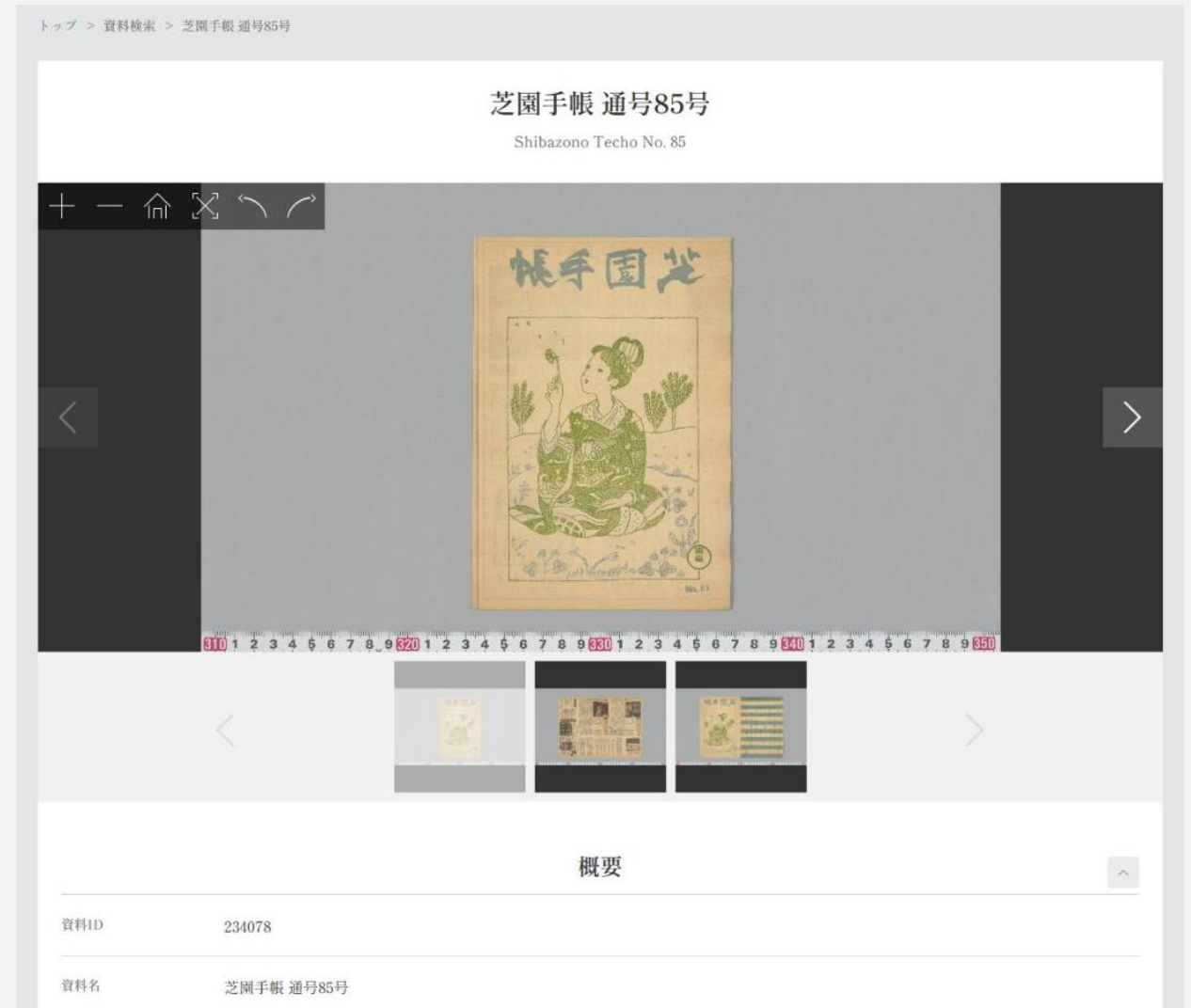
画像ビューアーの搭載

- 映画館プログラム公開と同時に機能更新

- 画像を任意の大きさに拡大・縮小可能

→ 映画関連資料の詳細な記載を閲覧できるように

- IIIFは非対応



今後実現したいこと

より多くの資料を公開したい

- 映画関連資料の所蔵数は膨大、日々増えている
- 権利処理をしたうえで、可能なものは積極的に公開したい

IIIF対応ビューアー導入の検討

- ユーザーにとってより閲覧・活用しやすい環境に
- 導入に向けた知識習得に努める

作業してみるとこんな問題が、、、

メタデータ登録スタッフVS専門家の詳細な調査データ

映画機材専門家による詳細な調査

- Excelにまとめてくれたが、調査データの体系化やデータ公開に向けた統一表記などの作業が複雑
- 外部委託のため、データ編集作業時は現場レベルで専門家とのコミュニケーションが取りづらい

e.g.) 「コンデンサー」と「コンデンサ」、どちらを採用しましょう？

版型が日本語と英語で違いますがどちらが正しいでしょうか？

※膨大な資料に対し、緻密な調査をしてくれた専門家の方には感謝しています

※NFAJ側のプロジェクトの進め方の観点で悩みました

メタデータ登録スタッフVS約20年前のカタログ作成データ

約20年前に在籍していた旧フィルムセンタースタッフが作成した映画館プログラムの目録リスト

- 映画館単位で当館DBに一括登録するための変換作業
- 約5000点の資料に対し、誤字脱字や表記ゆれの修正

作業中盤に差し掛かったころ、著作権の課題が浮上

- 掲載している著作物(評論文やイラストなど)の保護期間はクリアしているか？
- 資料1点1点から著作物をピックアップ→研究員に著作権チェックの依頼

→ 映画館プログラム5,682点中1,233点は画像非公開へ

ポータルサイト業務の悩み

想像以上にマンパワーが必要

- 資料そのものの多さ
- 再カタログリングが発生することも

著作権の処理

- 膨大な資料に対し、一点一点アクセスしての確認が大変

デジタルアーカイブ周辺の知識をより深める必要がある

経験談やアドバイスなど、ご教示いただけると幸いです

映画遺産ポータルサイト、今後も
新規資料を公開予定です。
是非ご覧ください！

<https://nfajfilmheritage.jp/>